



# さつま町男女いきいき幸せプラン

近年、私たちの生活は多様化しています。家事・育児・介護・地域活動や趣味・・・仕事をしながら○○○をしたいなど、それぞれの事情や活動領域によって様々です。

老若男女あらゆる人々が、様々な活動を自分の希望するバランスで選択・実現でき、一人ひとりがやりがいや充実感あふれる生活を送ることができる、そんな社会の実現を目指しています。

## 基本目標

安心・快適なるおいのある家庭づくり(その3)

～男女共同参画社会のための意識の醸成～

### ●正しい理解と意識づくりを進めます

人間の意識や価値観は、幼少期から家庭・学校・地域社会などさまざまな場において学習し形成され、わたしたちの行動や考え方に大きな影響を与えています。その固定した考え方によって、無意識のうち性別で役割を分担したり判断したりしてきているともいえます。

男女共同参画社会の実現に向けて必要なことはというと、住民アンケートでも、「男女平等についてお互い理解し、協力する」が最も多い回答でした。

このため、一人ひとりが持つ固定的な考え方にとらわれず、相手の人格を尊重し、人の考え方やものの見方を認め、他人を思いやり、助け合つというような人権意識や男女平等意識を育てることが重要であるといえます。

## ～ つぶやきさんからの質問 ～



つぶやきさん



ささやきさん

つぶやき 男女平等って男性も女性も全てを同じようにするってことなの？

ささやき 性別で役割分担する考え方や、人を性別で判断する意識は少しずつ解消してきています。育った世代でも男女平等の考え方は大きく違うと思いますが、「男だから」「女だから」という考え方ではなく「個」と「個」が、それぞれ持っている能力や個性を認め合いましようということなのです。

家庭でも、男の子がやること、女の子がやることを決め付けしないで、色々なことを性別に関係なくやってみてほしいと思います!!

# がんばれ 認定農業者!! シリーズ⑳

さつま町久富木

末永和知さん



末永さんは、(有)末永牧場の代表取締役として、搾乳牛60頭、未經産牛30頭、育成子牛30頭と生産牛22頭を飼養する酪農業を営まれています。また、農業の基本は土づくりと、良質堆肥の生産にも取り組んでいます。

もともと家業が酪農を営んでおり、子どもの頃から、酪農業を手伝っていたそうです。農業大学を卒業した後は、自分がどれだけ通用するのかとアメリカへ派遣研修に行き、50haもの広大な1枚の畑をトラクターで耕すなどの経験をされました。「アメリカでの研修は、良い経験をしたが、企業感覚で機械的な畜産に、自分が理想とする酪農業を見出すことはできなかった」と話す末永さん。帰国後は、理想と現実の違いを感じながら、北海道の放牧酪農を見に行き、そこで、初めて自分が理想とする酪農業の道を見つけたそうです。

将来の夢にヨーロッパ風の放牧酪農を想い描く末永さんは「子どもたちが、土や牛に触れたり、搾乳やチーズ作りを体験したり、みんなが酪農にふれ合える観光牧場を作りたい」と話されました。

## ●水稲防除に新戦力!!

### さつま町無人ヘリオペレーター部会



農薬散布用無人ヘリによる防除の様子

さつまを窓口、毎年一斉防除時期に行われ、他市町の防除組合などへ作業委託をしていました。

さつま町は、平成20年度で約1720haの水稲作付けがされている米どころであり、県内有数の種籾生産地としても知られています。しかし、農業者の高齢化や後継者の不在による労働力不足も今後の町内農業における大きな課題のひとつとなっています。

特に、猛暑時期に実施しなければならぬ水稲防除作業は、農家の大きな負担になっています。日中でも効率よく作業をこなせる無人ヘリに、今後、大きな期待が寄せられています。

8月16日、今年度第1回目の一斉水稲防除に合わせて、さつま町無人ヘリオペレーター部会(部会員5人)が、初めての農薬散布用無人ヘリによる委託防除フライトを行いました。

部会は、平成20年1月23日に設立された、さつま町で初めての無人ヘリによる防除組合です。

これまで、農薬散布用無人ヘリによる防除作業は、平成10年度頃からJA

部会長の小西義彦さんは「夏季の一斉防除は、他の耕作者に迷惑をかけるためにも、暑い中、短期間に必ず行わなければならない大変な作業です。私たちの力で少しでも地域農業を支えることができれば先行きも明るくなるはずです」と話されました。